

第2四半期累計実績

● 第2四半期では回復も、第1四半期に発生した特殊要因の影響や円高などにより、減収減益

前年同期比 売上高：95.9%、営業利益：74.1%、中間利益*：73.1% *親会社の所有者に帰属する中間利益

- 米州・EMEA・APは伸長も、日本での第1四半期のシステム切り替えに伴う受注制限や中国の市場環境の変化、円高の影響などにより、減収
- 第1四半期に発生した棚卸資産の評価額見直しや、売上減少による粗利益減少、販管費の増加などにより、減益

● 中国の医療費抑制政策の影響拡大

- 政府主導の医療費抑制政策の影響で、必要最小限の原則および代理店の在庫調整などにより、減収。売上は現地通貨ベースで前年同期比82.1%

5

浅野：浅野でございます。それでは、早速、2026年3月期の第2四半期決算についてご説明申し上げます。

スライド5ページ、エグゼクティブサマリーでございます。

第2四半期累計実績ですが、第1四半期に発生いたしました特殊要因、日本での社内基幹システム切り替えに伴う影響や棚卸資産の評価見直しに加えて、円高、中国市場の環境悪化により、前年比で減収減益となりました。

上期の修正公表値に対しての未達要因は、中国市場の悪化によるものです。その中国市場の状況につきましては、後ほどご説明いたします。

売上は、中国を除く海外地域は好調で、為替影響と特殊要因を除くと、ほぼ昨年度並みの売上となっております。

営業利益は、特殊要因があった第1四半期に比べて第2四半期が回復し、四半期営業利益率17.6%と、収益性は改善しております。

● 売上高5,100億円（△250億円）、営業利益760億円（△155億円）へ下方修正

ー第1四半期に発生した特殊要因に加え、中国での市場環境変化、新たな成長要素である生化学事業開始時期が、当初想定よりも若干後ろ倒しになったことによる影響などで対計画で減収。
中国を除く海外地域が好調で対前年増収(+0.3%)

ー営業利益は、第2四半期以降改善も、特殊要因が発生した第1四半期の影響を受け、減益

6

スライド 6 ページ、通期の業績予測です。

売上高および営業利益を、売上高 5,100 億円、当初計画マイナス 250 億円、営業利益 760 億円、当初計画比マイナス 155 億円と修正いたします。これは、第 1 四半期に発生した特殊要因に加えまして、中国市場での環境悪化、新たな成長要素として計画しておりました生化学事業の開始時期の遅れなどによるのが要因です。中国を除く海外地域は好調に推移しておりますが、通期業績予測には現状認識している中国のリスクを織り込んでおります。

決算総括（対前年）



(億円)	2026年3月期2Q		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	2,325.2	100%	2,424.7	100%	95.9%
売上原価	1,099.7	47.3%	1,111.8	45.9%	98.9%
販売費及び一般管理費	778.7	33.5%	723.7	29.8%	107.6%
研究開発費	132.0	5.7%	152.3	6.3%	86.6%
その他の営業損益	14.7	0.6%	8.1	0.3%	180.8%
営業利益	329.5	14.2%	445.0	18.4%	74.1%
親会社の所有者に帰属する中間利益	190.1	8.2%	260.0	10.7%	73.1%

- **売上高** : 第1四半期の日本の基幹システム切り替えの影響や中国の市場環境変化、円高の影響などにより、減収
- **営業利益** : 第1四半期の棚卸資産評価見直しや売上減少による粗利減少、円高、販管費の増加などにより、減益
 - ✓ 為替の影響 売上高 △48.4 億円、販管費 △8.8 億円、営業利益 △15.9 億円
 - ✓ 前年同期為替レート適用の場合 売上高 97.9%、販管費 108.8%、営業利益 77.6%
- **中間利益** : △26.9%の減益 為替差損益: △6.8 億円 (前年同期比+33.4 億円)



8

8 ページ、上期決算総括です。

売上高は、先ほど申しましたように、円高の影響、システム切り替えに伴う影響に加え、中国の市場環境悪化により減収となりました。

営業利益は、棚卸資産の評価見直し加え、償却費増、それから為替影響が重なり減益となっております。

第2四半期実績（対第1四半期）



日本の試薬売上回復および各地域の増収効果などにより、収益性が1Qから大幅改善

(億円)	2026年3月期1Q (4月-6月)		2026年3月期2Q (7月-9月)	
	実績	構成比	実績	構成比
売上高	1,057.3	100%	1,267.9	100.0%
売上原価	512.6	48.5%	587.0	46.3%
販売費及び一般管理費	382.9	36.2%	395.7	31.2%
研究開発費	64.0	6.1%	67.9	5.4%
その他の営業損益	8.6	0.8%	6.0	0.5%
営業利益	106.2	10.1%	223.2	17.6%
親会社の所有者に 帰属する中間利益	45.5	4.3%	144.6	11.4%

9

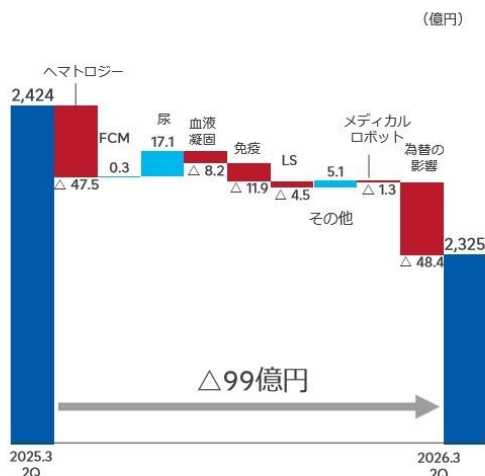
スライド 9、これは四半期ごとに見た PL です。

第 2 四半期単独では中国を除く海外地域が好調で、営業利益が 17.6%と、収益性が大幅に改善しております。

売上高の増減要因（事業別・分野別）



事業別・分野別売上高



尿分野は好調も、日本・中国の影響により主要分野が減収

(億円)	2026年3月期2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	2,325.2	100.0%	95.9%	97.9%
ヘマトロジー	1,405.8	60.5%	94.6%	96.8%
FCM	16.0	0.7%	101.3%	102.4%
尿	206.8	8.9%	105.8%	108.8%
血液凝固	351.1	15.1%	95.5%	97.7%
免疫	102.8	4.4%	87.7%	89.8%
生化学	12.8	0.6%	72.6%	74.1%
ライフサイエンス	101.7	4.4%	96.2%	95.7%
その他	112.1	4.8%	109.4%	109.4%
ダイアグノスティクス事業	2,309.5	99.3%	95.9%	97.9%
メディカルロボット事業	15.7	0.7%	91.9%	91.9%

10

10 ページ、売上高の事業別・分野別増減要因です。

ヘマトロジー分野は、日本で昨年度、機器販売が好調あったのに対する反動や、中国での代理店における在庫調整も加わり、減収となりました。

尿分野は、米州、EMEA、アジア・パシフィックで好調に推移しました。

また、メディカルロボット事業は、日本の医療機関の経営状態が厳しく、新規設置台数は昨年、計画を下回りましたが、手術件数の増加により、消耗品ならびにサービスの売上は大幅に拡大しております。

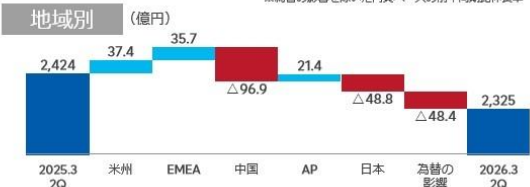
売上高の増減要因（地域別・品目別）



米州、EMEA、APが伸長するも、日本・中国の影響により減収

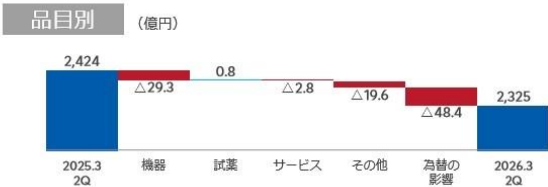
(億円)	2026年3月期2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	2,325.2	100.0%	95.9%	97.9%※
米州	646.8	27.8%	101.5%	105.9%
EMEA	729.6	31.4%	105.6%	104.2%
中国	432.8	18.7%	79.4%	82.1%
AP	261.5	11.2%	105.7%	108.7%※
日本	254.3	10.9%	83.9%	-
機器	438.9	18.9%	92.2%	93.8%※
試薬	1,475.9	63.5%	97.9%	100.1%※
サービス	322.3	13.9%	96.7%	99.1%※
その他	88.0	3.8%	81.2%	81.9%※

※為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率



地域別の主な増減要因 *現地通貨ベース

米州	・ 1Qからの北米好調は継続、中南米も2Qに入り大きく伸長 2Q単では対前年 + 8.8%と高成長し、 増収
EMEA	・ 中東における地政学的影響により、トルコやサウジアラビアなどが 減収も、主要国を中心に機器・試薬とも好調に推移し、 増収
中国	・ 新たな医療費抑制政策（必要最小限の原則）の影響に加えて、 代理店の経営悪化による在庫調整などが ¹⁾ 進み、 減収
AP	・ 機器は減収も、ヘマトロジー・尿分野の試薬が伸長し、上期は 増収 2Q単は、インドヘマトロジー分野の試薬伸長が牽引し、2桁 増収
日本	・ 前年度の機器好調の影響や1Qの基幹システム切り替えに伴う受注制 限が影響し試薬が 減収 も、2Q単の 試薬売上は通常水準へ回復



11 ページ、売上高の地域別・品目別増減要因です。

中国を除く海外地域は、現地通貨ベースで大きく伸びており好調です。特に AP では試薬を中心に増収し、第 2 四半期単ではインドを中心に 2 桁成長を達成しています。

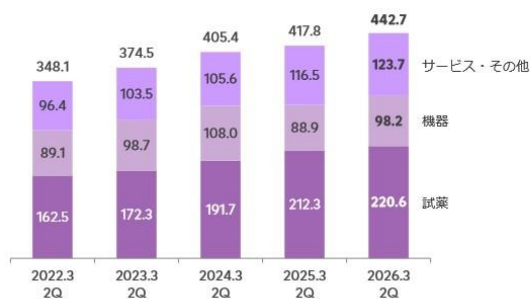
各地域の詳細は、これより個別にご説明申し上げます。

米州（地域別）



(Million USD)	2026年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	442.7	417.8	105.9%	101.5%
機器	98.2	88.9	110.5%	105.9%
試薬	220.6	212.3	103.9%	99.5%
サービス・その他	123.7	116.5	106.2%	101.7%

売上高推移 (Million USD)



1Qから北米好調は継続、中南米も2Qに入り大きく伸長。
2Q単では対前年+8.8%と高成長し、増収

● 機器

- ✓ヘマトロジー・尿・血液凝固分野が好調に推移し、増収
- ✓下期は新製品の販売開始により、さらなる増収を見込む

● 試薬

- ✓ヘマトロジー・尿分野が順調に推移し、増収
- ✓アミロイドβ検査試薬も堅調に推移 (売上高3.4 MUSD、対前年+60%)
- ✓血液凝固分野は機器販売増加による増収を今後見込む

12 ページ、まず、米州です。

北米の堅調な需要に加えまして、中南米でも大きく伸びました。第2四半期単では、現地通貨ベースで前年度8.8%増と、高い成長が見られました。

機器では、ヘマトロジー・尿・血液凝固、全ての分野で好調で、第3四半期以降も新機種の発売を見込んでおりますので、好調を維持するものと思います。

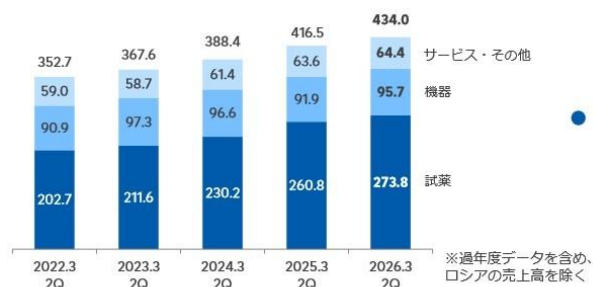
試薬も堅調に推移しておりまして、ヘマトロジー・尿分野に加えまして、アルツハイマー病検査のアミロイドβ試薬も高い伸びを示しました。

EMEA（地域別）



(Million EUR)	2026年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	434.0	416.5	104.2%	105.6%
機器	95.7	91.9	104.2%	105.7%
試薬	273.8	260.8	104.9%	106.3%
サービス・その他	64.4	63.6	101.3%	102.3%

売上高推移 (Million EUR)



中東における地政学的影響により、トルコやサウジアラビアなどが減収も、主要国を中心に機器・試薬とも好調に推移し、増収

● 機器

- ✓ フランスや北欧などでXR™シリーズが好調に推移した他、イタリアやスペインなどで尿分野が伸長し、増収
- ✓ 血液凝固分野は、ドイツでCN™シリーズなどの大型案件を獲得、今後さらなる成長を見込む

● 試薬

- ✓ トルコ、サウジアラビアで減収も、主要国が好調に推移し、全分野で伸長

13 ページ、EMEA です。

EMEA では、地政学的影響によって中東の一部で減収となったものの、欧州の主要国では堅調に推移しました。

フランスや北欧では XR シリーズが好調に推移したほか、イタリア、スペインでは尿分野が伸長いたしました。

また、ドイツでは、血液凝固分野において CN シリーズの大型案件の獲得があり、設置は下期になりますが、さらに試薬販売の拡大も見込んでおります。

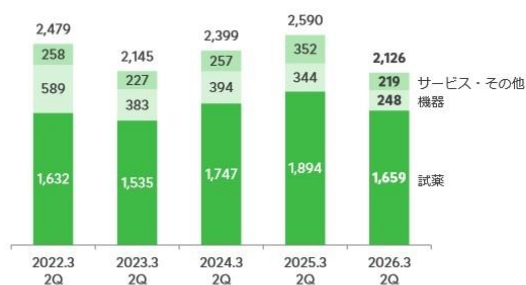
主要国を中心に、機器・試薬とも増収を確保し、全体としては堅調な結果となりました。

中国（地域別）



(Million CNY)	2026年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	2,126.6	2,590.8	82.1%	79.4%
機器	248.5	344.6	72.1%	70.0%
試薬	1,659.0	1,894.0	87.6%	84.6%
サービス・その他	219.0	352.0	62.2%	60.5%

売上高推移 (Million CNY)



医療費抑制政策（必要最小限の原則）の影響に加えて、代理店の経営悪化による在庫調整などが進み、減収

● 機器

✓ヘマトロジー分野は、上位市場の設置台数は前年同等、中下位市場では小型モデルが好調に推移するも、代理店在庫の調整により、減収

✓血液凝固・免疫分野はロックダウン効果により前年下期から継続して好調に推移し、増収

● 試薬

✓必要最小限の原則により、市場ではCRP検査の除外や血液凝固分野の検査数が減少

✓代理店の経営悪化による在庫調整も影響し、減収

14 ページ、中国です。

中国では政府主導の医療費抑制政策が続いており、特に必要最小限の原則という原則が通達されまして、それによるセット検査項目の制限が起こり、CRP や血液凝固検査数の減少が顕著になってきております。また、代理店の経営悪化により在庫調整も影響し、この上期半期は減収となりました。

中国の事業環境につきましては、現地からの情報に加えて、私も、この場にいます松井も飯塚も手分けして、現地の病院を訪問し、実際に検査の責任者の方から直接お話を伺いました。その内容を次ページ以降にまとめておりますので、ご説明いたします。

中国の事業環境



当社ヘマトロジー検査の状況

- 厳しい競争環境の中シェア*を維持

37.4% (CY2023) → **37.5%** (CY2024)

* 開示情報に基づいて当社独自で推定データを算出

- ヘマトロジー検査数/台は微減

■ 中国ヘマトロジー検査数推移（当社推計）



- 装置の市場設置台数（2026年3月期上期）

上位市場： 前年同等

中位市場： 中国製XN™-Lシリーズが好調に推移

医療費抑制政策の影響 顕在化

- 必要最小限の原則（セット検査の制限）

中国政府が二級以上の医療機関に対し、必要最小限の原則に従って、セット検査項目の見直しを要求

当社への影響が顕在化

- ・ CRP検査の減少
- ・ 血液凝固検査（D-Dimer、消耗品）の減少

医療機関・代理店の経営状態の悪化



15

15 ページ、中国の事業環境です。

まず左側は、当社のヘマトロジー検査の状況です。これは 2024 年度のシェアですけれども、37.5%と、ここ数年、厳しい競争環境が続いておりますが、シェアを維持することができております。

また、この真ん中のグラフですが、これは機器 1 台当たりの検査数の推移です。これを見ましても、検査数は大きな変化はなく、微減にとどまっており、大きな変化はございません。検査データの施設間の共有化の影響についても可能性がありますが、それはどうも 3 日以内の検査についてですので、ヘマトロジーにおいては、そのようなケースは少ないと思っております。ですので、大きな影響はないと判断します。

また、この一番下の部分ですけれども、今年に入って、代理店から病院への新規設置についても、上位市場は前年並み、そして中位市場につきましては、中国産の XN-L シリーズが好調に推移しております。

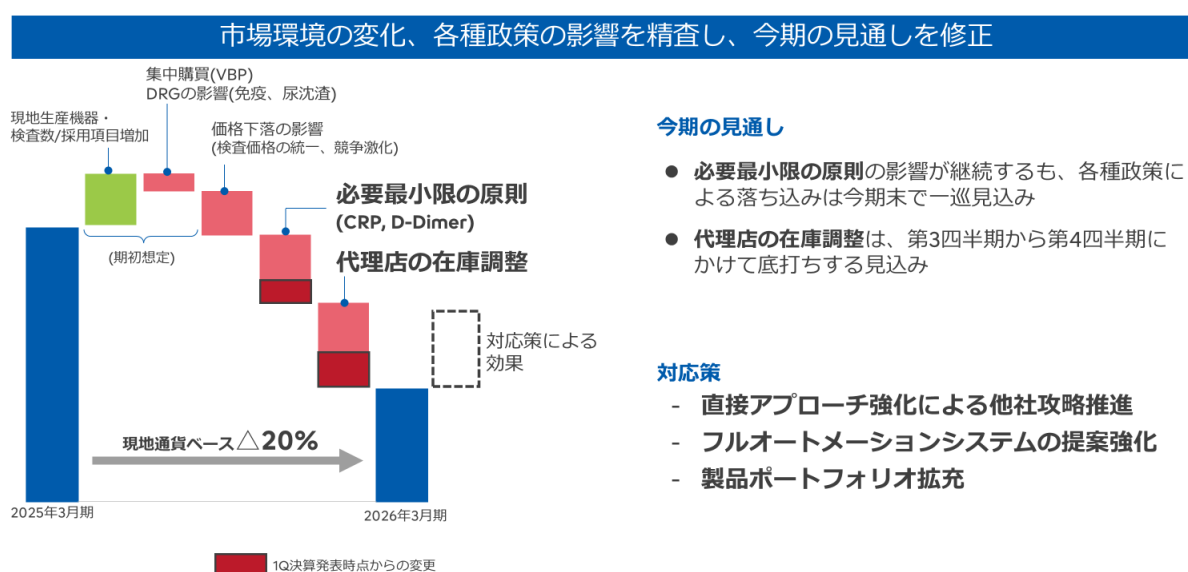
以上のように、競争激化の影響はありますが、ヘマトロジー検査自体の実需は、大きな変化は受けていません。

右側です。一方、セット検査につきましては、過去からも特定の検査領域で見直しが図られていたましたが、4 月末に必要最小限の原則という通達が政府から出されました。その影響は、当社の場合、CRP 検

査と血液凝固検査、特に D-Dimer、消耗品となります。第 1 四半期は既に CRP については影響が出ていましたが、第 2 四半期からはこの必要最小限の原則の通達に沿って、血液凝固検査のセット検査制限の影響が出てまいりました。

また、スライドの右下ですが、一連の医療費抑制政策の影響により多くの医療機関が赤字経営となり、代理店には値下げや回収期間の延長を余儀なくされ、経営状態が悪化しております。それに伴い、代理店で在庫の調整が進められており、それが当社売上への影響となっております。

中国における今期見通し



16

今申し上げたのを図式したのが、このスライドです。

左側ですけれども、まず昨年度から、緑のバー、これは患者の自然増であったり、高齢化に伴う患者増であったり、現地生産品が増えていきますので、それに対する需要増、それから採用項目も増加していきますので、そういうことで緑の部分の成長も見込んでおりました。

一方、VBP、DRG の影響も想定しておまして、緑の右のバーですけれども、それによる影響が少しあります。ただし、大きくは影響しないということで、期初計画を想定しておりました。しかし、今期に入りまして、さまざまな要因、検査価格の統一、あるいは競争激化によって、検査価格の下落が起きました。それが右のスライドです。

1 クォーターの段階では、必要最小限の原則に従って、CRP の減少とヘマトロジーの一部代理店の在庫調整の影響を見込んでおりました。これがその上期予測です。

ですが、実際には、黒い枠で囲んだ少しダークな赤の部分ですけれども、血液凝固検査の D-Dimer という検査が減少し、さらに代理店の調整在庫も経営状態の悪化によってさらに進んだということになりました。

これによって、約 20%の現地通貨ベースでの収入の減少となります。

この検査の必要最小限の原則は下期も継続すると思われませんが、一方、代理店の在庫調整は 3Q から 4Q にかけて底打ちすると見ております。また、必要最小限の政策は、各種政策による落ち込みは今期で一巡すると思っております。

さらに、青い右側に点々と含まれているのは今とっている対策で、対応策は右にお示しているとおりですけれども、これによって落ち込みは最小限にとどめたいと思っております。

AP（地域別）



（億円）	2026年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	261.5	247.4	105.7% (108.7%)
ダイアグノスティクス事業	260.7	247.4	105.3%
機器	45.8	50.6	90.4%
試薬	194.0	168.8	114.9%
サービス・その他	20.8	27.9	74.7%
メディカルロボット事業	0.8		*()は為替の影響を除いた場合

機器は減収も、ヘマトロジー・尿分野の試薬が伸長し、上期は増収。2Q単は、インドでのヘマトロジー分野の試薬伸長が牽引し、2桁増収

ダイアグノスティクス事業

● 機器

✓ インドネシアにおける医療機器への予算抑制の影響などにより、減収

● 試薬

✓ インドにおいてヘマトロジー分野が回復した他、フィリピンなど東南アジアでヘマトロジー・尿分野が伸長し、増収

メディカルロボット事業

✓ 上期導入台数：1台、累計台数：4台

✓ シンガポール、マレーシアでそれぞれ100症例以上実施されるなど、手術数は順調に増加



17

スライド 17、アジア・パシフィックです。

アジア・パシフィックでは、インドを中心にヘマトロジー分野が大きく伸長し、上期は増収、第2四半期単独においては2桁成長を達成いたしました。

インドでは、新工場における生産が順調に稼働し、試薬の出荷も開始しております。また、フィリピンやマレーシアなど東南アジア諸国でも、ヘマトロジー・尿分野が好調に推移しました。

一方、インドネシアでは、医療機器予算の抑制があり一部減収となりましたが、地域全体では増収です。この地域ではメディカルロボット「hinotori™」も1台導入され、手術数も順調に伸びていきます。

日本（地域別）



(億円)	2026年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	254.3	303.2	83.9%
ダイアグノスティクス事業	239.4	286.1	83.7%
機器	33.0	57.2	57.7%
試薬	161.8	182.2	88.8%
サービス・その他	44.5	46.6	95.5%
メディカルロボット事業	14.9	17.1	87.1%

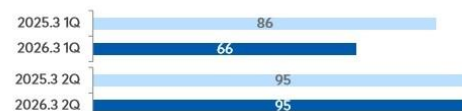
前年度の機器好調の影響や、1Qの基幹システム切り替えに伴う受注制限が影響し試薬が減収。なお、試薬売上は通常水準へ回復

ダイアグノスティクス事業

- ✓ 機器は、前年度のヘマトロジー分野を中心とする機器好調の反動などにより減収
- ✓ 試薬は、受注制限の影響は概ね解消。ヘマトロジー、血液凝固分野で他社攻略が進む



■ 試薬売上 単四半期比較



メディカルロボット事業

- ✓ 病院の設備投資が弱く、新規設置台数は減少
- ✓ 上期導入台数：6台、累計台数：92台（グローバル96台）

18

18 ページ、日本です。

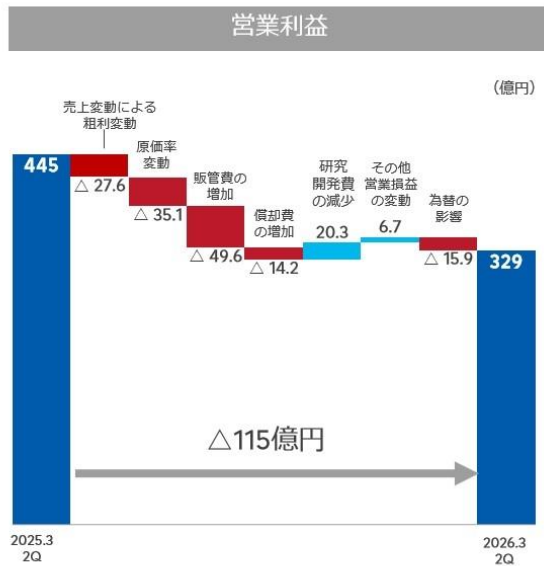
日本は、前年度好調でありました機器販売の反動や社内基幹システムの切り替えによる受注制限の影響によって、上期は一時的に減収となりました。しかしながら、国内の試薬販売は、システム切り替えの影響を受けた第1四半期から既に通常状態に戻っており、ヘマトロジー・血液凝固分野での他社からの切り替えも進んでいるなど、今後、売上拡大が見込めます。

メディカルロボット事業は、病院経営状態の悪化により、上期設置は6台にとどまりましたが、他社も同じような状況でありまして、当社推計であります。今年度上期単独の設置台数ベースで見ますとシェアは約20%を維持していると考えています。また、手術数は確実に増加しておりまして、消耗品、サービスの売上拡大につながっています。

営業利益の増減要因（対前年）



※下記数値・コメントは為替の影響を除く



- 売上変動による粗利変動：△27.6億円
- 原価率変動による影響：△35.1億円（1.4pt悪化）
 - ✓ 改善要因：ロジコストの改善 0.1 pt
 - ✓ 悪化要因：棚卸資産の評価額見直し影響 0.7 pt
サービスコストの悪化 0.7 pt、関税の影響 0.2 pt
- 販売管理費の増加：△49.6億円
 - ✓ 労務費：直販地域拡大に伴う人員増や単価増：△24億円
 - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：△14億円
- 償却費の増加：14.2億円
- 研究開発費の減少：20.3億円
 - ✓ 製品開発への投資継続も、ライフサイエンス分野のPivotによる研究開発テーマの精査などにより減少
- その他営業損益の変動：6.7億円
- 為替の影響：△15.9億円

19

スライド 19、営業利益の増減要因です。

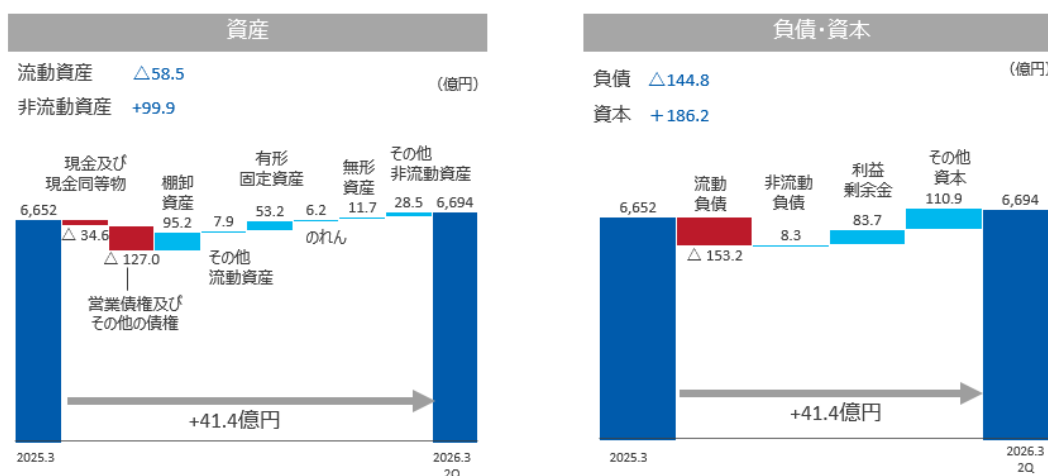
営業利益は、第1四半期の特殊要因に加え、中国市場での市場環境の悪化、直販地域拡大に伴う販管費増、社内基幹システム稼働開始による償却費増、為替影響などにより減益となりました。

なお、米国関税の影響は、対策の効果もあり、上期では4億円程度の影響にとどまりました。

連結財政状態計算書の増減要因



資産は営業債権及びその他の債権の減少も、棚卸資産は増加
負債は、法人税の支払いにより流動負債が減少も、為替変動の影響によりその他資本が増加



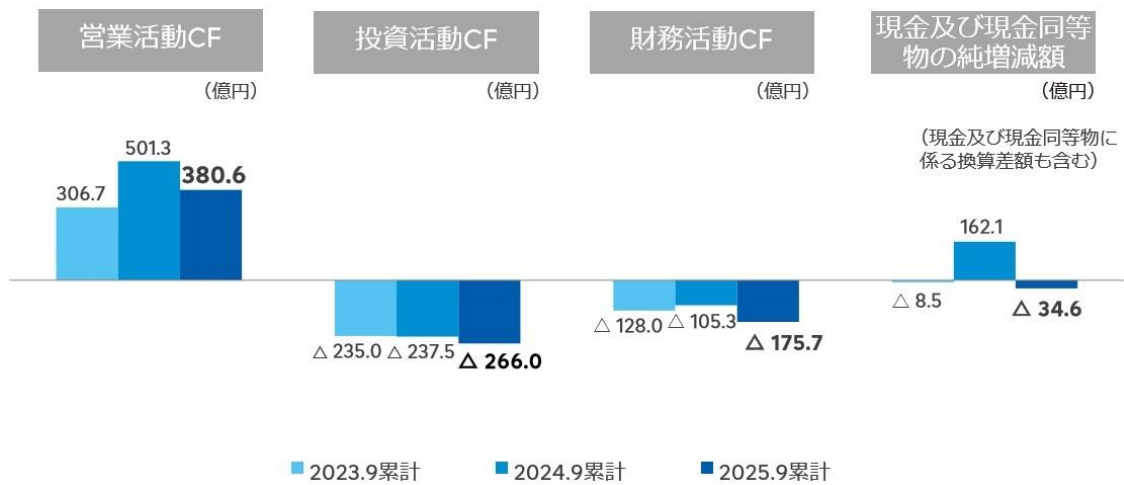
20

20 ページ、財政状態、キャッシュフローです。

資産面では、営業債権の減少がある一方、棚卸資産は増えております。

負債は、法人税支払いにより、流動負債が減少いたしました。

キャッシュフローの推移



21

21 ページ、キャッシュフローです。

営業キャッシュフローは売上の減少に伴い低下しており、現金及び現金同等物も前期比で若干減少しております。

生化学分野の市場規模



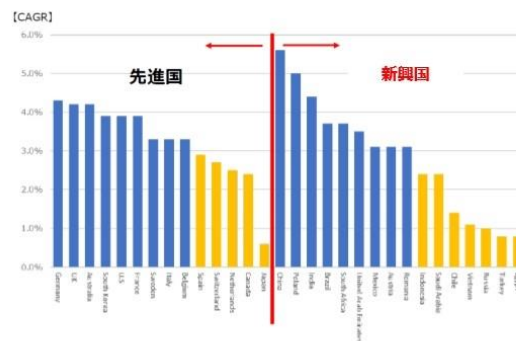
生化学は基本的な検査であり、検査室構築に必須
先進国・新興国共に、スクリーニング検査の需要拡大により持続的な成長市場を形成

■生化学分野の市場規模

分野	2024年市場規模 (百万USD)	市場成長率 (2025-2028年)
検体検査市場全体	96,000	3%
免疫分野	27,000	3%
生化学分野	9,000	4%
ヘマトロジー分野	4,300	3%
血液凝固分野	3,200	3%
尿分野	1,200	3%

* 検体検査市場および各検査分の市場規模・成長率（2024年時点）は
開示情報に基づいて当社独自で推定データを算出

■生化学分野の国別市場成長予測



出所：Kalorama 30-Country In Vitro Diagnostics(IVD) Market Atlas[2024]

顧客から寄せられる生化学分野での当社への期待の高まり

新興国は、より高い成長率を予測

23

ここから成長戦略の進捗についてご説明します。

当社は三つの成長戦略として、既存事業の強化・新興国戦略・新規事業の拡大を柱として推進しております。まず新興国戦略の一環として、先日、日本電子株式会社様より、生化学事業の譲渡契約を締結しました。その戦略的な狙いや取り組みについてご説明したいと思います。

23 ページ、まず、生化学検査の市場についてです。

生化学検査は血液・尿とともに基本的な検査でありまして、検査室には必須の要素です。生化学検査というと、どうしても成熟市場のように思われますが、このように安定的に成長しておりまして、特に新興国では高い成長率を示しています。

弊社に生化学検査が加われば、お客様に検査室全体を当社製品でご提案できることが可能になります。実際、新興国のお客様からもそのようなご要望をいただいております。

日本電子社（JEOL）からの生化学検査事業承継の狙い



- 日本電子社の機器の技術と当社の強みを融合し、試薬・精度管理を含め新興国中心に提供
- 生化学検査を追加することで主要な検体検査のポートフォリオを網羅。データとAIで多様な価値を提供

1. JEOL製生化学装置の特徴

- ・ 独自の検体希釈技術による**微量検体・試薬**
- ・ **高い処理能力**を実現
- ・ 日本市場では、トップシェア

2. 当面の重点地域

日本、新興国、中国（WEGO Medical社との連携）

3. クロージング予定日

2026年4月1日（既に公正取引委員会におけるクリアランスを取得するなど順調に進捗）



既に当社が一部地域で販売している
BioMajesty™ JCA-BM6010

24

このような背景から、日本電子社から生化学事業を継承することになりました。その戦略的意義を改めてご説明します。

一つは、日本電子製の機器と当社の強みを融合し、新興国を中心に、お客様にソリューションをご提供することです。

そして二つ目は、生化学検査を加えることによりまして主要な検査が網羅されますので、それらのデータを使った新しいソリューションを展開できることが可能となります。

ここで、日本電子製生化学機器の特徴を申し上げます。

まず、独自の検体希釈技術によって、検体および試薬の微量化が可能です。また、非常に高い処理能力を有しております。このようなことから日本ではトップシェアを持っておられますが、グローバル展開ができておりません。ここにシスメックスのグローバルネットワークを活用できると考えております。

当面の重点地域として、日本、新興国、そして中国、これは中国の医療機器の大手企業である WEGO Medical 社と日本電子社が連携されておりまして、クロージング後は引き継ぐことになります。

クロージング予定日は、来年の4月1日を予定しております。当初は今年度中のクロージングを予定しておりましたが、薬事認可の関係でこうせざるを得ないということになりましたが、クロージングに向けての準備は予定どおり進めております。

顧客ニーズに応える当社独自の製品・サービス供給により、新興国を中心とする検査需要を取り込み、生化学分野の拡大および収益性向上を実現する

機器	試薬
JEOLからの 生化学検査事業承継シナジー 製造 ・ 台数増による量産効果 ・ 当社の生産機能・サプライチェーンを利用したコストダウン 大幅な原価低減 開発 ・ 新興国向けコンパクト装置 ・ 搬送接続を活用した検査統合など 顧客ニーズに応えた開発推進  ※ イメージ図	試薬メーカーとのパートナーシップを 発展させ、試薬のグローバル販売を加速 (OEM化を含む) ・ ユニーク項目のグローバル展開と微量化測定メリットの相乗効果により収益性を確保 精度管理サービス ・ 精度管理システムの海外展開 (Caresphere™)

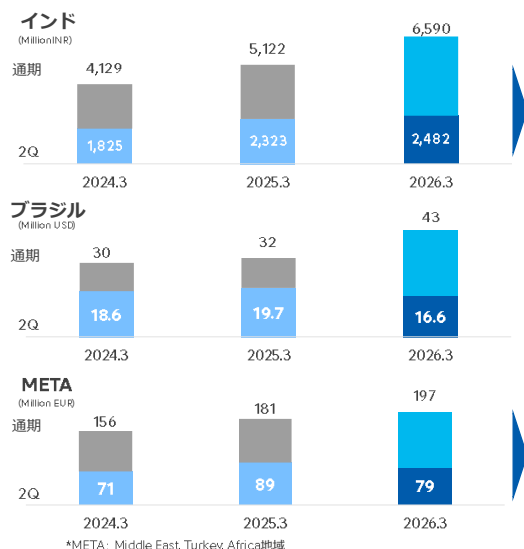
25

25 ページ、生化学検査分野の展開のイメージをここにお示ししております。

当社は、事業承継する生化学の分析装置を単に販売するだけではなく、シスメックスの強みを加え、顧客ニーズに応じる当社独自の製品の供給を目指します。また、機器については、台数増加に伴う量産効果や、シスメックスの生産能力、サプライチェーンを活用することによって、大幅なコストダウンが可能と考えています。また、当社の商品設計および量産技術を生かし、新興国での顧客ニーズに応えるコンパクト装置の開発、あるいは搬送接続などを進めてまいります。

右側、試薬につきましては、国内外の試薬メーカーとのコラボレーションを進め、シスメックスブランドでの試薬販売を進めます。また、微量化測定というメリットを生かした新しいビジネスモデルやユニーク項目により、収益性も確保できると考えています。

3つの成長戦略：新興国戦略



主な取り組み内容

- 直接販売サービスのテリトリーを主要都市から郊外都市へと拡大を進め、**得意とする検査効率化提案により上中位セグメントでの更なるシェア拡大を推進**
- エジプト・トルコなど新興国においても検査室の効率化ニーズが高まっており、ヘマトロジー分野と血液凝固分野の統合システム「Blood Science」の導入が進む。



ストーリー

“検査が医療を支える”を実感できる現場
～EMEAで広がる血液凝固検査の新たな挑戦～

<https://www.sysmex.co.jp/stories/hemostasistesting-business-revolution.html>

26 ページ、新興国の状況でございます。

インド・ブラジルは、今期も 20%を超える高い伸長率を見込んでおり、入札のタイミングで四半期ごとにばらつきはあるんですけども、通期では特に懸念事項はなく、計画どおりに推移すると見ております。

これまで好調に推移してきた META 地域において、一時的に中東における地政学的影響がありましたが、今後は確実な成長が見込めると見ております。エジプトやトルコなど新興国においても、検査室の効率化ニーズが高まっており、スライドの右下の部分ですけども、ヘマトロジーと凝固分野を融合した「Blood Science」の導入が進んでおります。

インドにおける戦略的取組み



Make in India に対応した現地生産体制が
順調に稼働中、製品出荷を開始

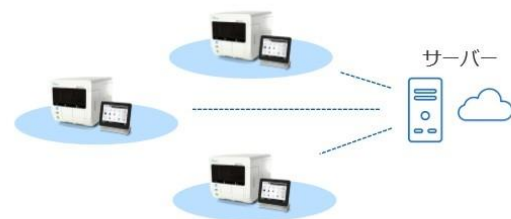
- 新生産拠点における**機器・試薬の製造が順調に進捗、試薬製品の出荷開始**
- 装置は2026年3月期末に向けて、**Local Content 50% (Class I*)** 達成を目指す



* Class I: 最低限50% local content (入札時に優遇有り)
Class II: 最低限20% local content (Make in India tenderへ入札可能となる)
(当社調べ)

現地の医療課題改善、市場環境へ適応する
戦略製品の投入と新たな価値の提供

- IT/デジタル技術を駆使し、検査システムの稼働支援と適切なサービス提供を図る第1弾の戦略製品を市場投入
- 公衆衛生や現地特有の医療課題改善に向け、当社独自の検査データを活用した新たなソリューションの創出に向けて官民連携で取り組み中(次年度中のリリースを目指して検証中)



27

27 ページ、インドにおける戦略的取組みについてご説明します。

今年 4 月に稼働開始した機器・試薬の新工場から順調に製品出荷が開始されております。

インド市場では Make in India に対応した機器の現地生産を行っていることが特徴であり、現地調達比率を、現在 20% ですが、2026 年 3 月末をめどに 50% 以上に引き上げる計画を進めております。これにより、政府調達案件における入札において、さらなる競争優位、アドバンテージが得られますので、競争優位を構築したいと思います。競合他社は、まだこの対応はできていないということになります。

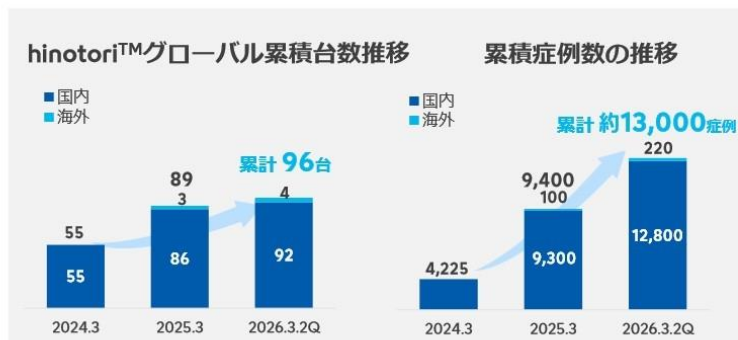
また、インドに向けた戦略製品の投入を考えたいと思っております。右側です。公衆衛生上の課題や現地特有の医療課題解決に向けて、当社独自の検査データを活用した新しいソリューションをご提供するサービスです。現在、官民連携で取り組みを進めており、次年度中にリリースする予定にしております。

3つの成長戦略：新規事業の拡大（メディカルロボット事業）



設置台数増加に伴う症例数の伸長、欧州市場への導入準備を推進

- ✓ 日本：幅広い診療科領域のカバー、設置台数の増加などにより、症例数は対前年同期比で約150%伸長
- ✓ AP：症例数は前年度より伸長。臨床実績と信頼性の蓄積により、周辺国へのさらなる普及加速を目指す
- ✓ 欧州：今年度中の薬事認可取得を予定し、トレーニングセンターを開設など市場導入体制構築



IRCAD Franceに開設された
メディカロイドのトレーニングセンター

28

28 ページ、メディカルロボット事業「hinotori」です。

累計設置台数はもうすぐ 100 台になります。手術数は対前年同期で 1.5 倍となり、累積症例数も 13,000 症例を超えました。症例数の増加によりまして、収益性の高い消耗品、サービスの構成比も増加しております。さらに、薬事申請を実施した欧州においては、その認可が今年度中に得られる予定です。

市場導入に向けまして、右側は欧州最大のロボットトレーニングセンターであるフランスの IRCAD というところですが、そこに「hinotori」のトレーニングセンターを開設いたしました。先日、日本と IRCAD をつないで、遠隔手術の臨床実験をしましたが、ここに「hinotori」を設置しています。

このように、来年度からの市場導入に向けた体制・構築を進めております。

2026年3月期 通期業績予想修正



緑字：期初公表（2025年5月）からの変更箇所

中国での事業環境変化等により、売上高・営業利益共に下方修正

(億円)	2026年3月期 上期 (4月-9月)			2026年3月期 下期 (10月-3月)		2026年3月期 通期 (4月-3月)			
	実績	構成比	対計画 達成率	修正公表	構成比	修正公表	構成比	対前年	対期初公表
売上高	2,325.2	100%	96.9%	2,775	100.0%	5,100	100.0%	100.3%	△250
売上原価	1,099.7	47.3%	-	1,315	47.4%	2,415	47.4%	102.0%	△95
販売費及び 一般管理費	778.7	33.5%	-	856	30.9%	1,635	32.1%	108.4%	+25
研究開発費	132.0	5.7%	-	168	6.1%	300	5.9%	95.4%	△30
その他営業損益	14.7	0.6%	-	△5	-	10	0.2%	△46.7%	△5
営業利益	329.5	14.2%	91.5%	430	15.5%	760	14.9%	86.8%	△155

投資計画	設備投資 500億円	減価償却費 450 億円	ROE	9.5%
● 想定為替レート				
	通期 (2025年5月公表)	通期 (2025年11月修正)	下期 (2025年11月修正)	
1 USD	142.0円	148.5円	151.0円	
1 EUR	160.0円	171.5円	175.0円	
1 CNY	19.5円	20.8円	21.3円	
● 為替感応度の概算値（下期）				
	売上	営業利益		
USD	4.1億円	0.5億円		
EUR	3.1億円	0.1億円		
CNY*	2.3億円	1.5億円		

*0.1円変動時

30

スライド 30 へお進みください。

売上高、営業利益は下方修正し、売上高 5,100 億円、当初計画マイナス 250 億円、営業利益 760 億円、当初計画比マイナス 155 億円といたしました。

売上は、第 1 四半期で発生した特殊要因に加え、中国市場の市場環境の変化、新たな成長要素として計画していた生化学事業の開始時期の遅れが主要因になります。中国を除く海外地域は、それぞれ好調に推移しており、対前年売上は増収を見込んでおります。

営業利益につきましても、下期は昨年度並みの営業利益額を見込んでおります。

参考 | 2026年3月期業績予想（事業・分野別・地域別売上高）

事業・分野別売上高 (億円)			地域別売上高 (億円)		
	2026年3月期	前年同期比		2026年3月期	前年同期比
ヘマトロジー分野	3,035	100.1%	米州	1,390	106.0%
FCM分野	55	151.2%	EMEA	1,600	114.0%
尿分野	445	109.0%	中国	935	79.3%
血液凝固分野	785	95.3%	アジア・パシフィック	565	110.1%
免疫分野	220	85.0%	日本	610	90.0%
生化学分野	35	96.3%			
ライフサイエンス	240	112.5%			
その他	235	104.8%			
ダイアグノスティクス事業	5,050	100.3%			
メディカルロボット事業	50	93.1%			
合計	5,100	100.3%			

緑字：変更箇所

31

スライド 31、これはご参考までに、事業別、それから地域別の売上を展開したものです。

予想配当額



● 配当額は前年から6円増配（期初公表から変更なし）

	中間	期末	年間	配当性向
2025年3月期	15円	17円	32円	37.4%
2026年3月期 (予想)	19円 *記念配当1円含む	19円 *記念配当1円含む	38円	53.0%

32

32 ページ、配当です。

上場 30 周年の記念配当を含め、前年から 6 円の増配を実施いたします。

成長要素を取り込み、2026年3月期からの大幅な増収増益を目指す

成長要素

- 海外地域における堅調な成長
 - － 欧米での血液凝固事業の拡大
 - － インドなど新興国での成長継続
 - － 手術支援ロボットhinotoriの欧州導入
- 生化学検査の事業開始
- 日本および中国の回復
- デジタルを活用した新たな価値提供
 - － Sysmex AI を2026年3月期中にリリース予定

(1) Sysmex AIの特徴

- 検査・診断の専門的知識を有する
 - ✓ 検査医学知識
 - ✓ 大規模なレセプトデータ、シスメックスが保有する手術・検査データ
- リスク推定精度向上のための検査推奨
 - ✓ シスメックス製品が持つリサーチ項目
 - ✓ シスメックス独自のバイオマーカーの活用
- 臨床現場に対応したオンプレミスLLM対応
 - ✓ 外部インターネットの接続を必要とせず動作可能なセキュアなAI

sysmex



(第22回技術説明会資料より)

33

スライド 33、最後のスライドです。来期に向けてです。

今期は、第1四半期に発生した社内基幹システム切り替えの影響や、中国における市場環境の悪化など逆風があり、中国・日本で減収となりました。来期は、日本でシステム切り替えの影響は解消されていますし、中国は今期で一連の影響が落ち着き、次の期からは回復が期待されます。

また、成長要素も多くあります。海外事業は好調で、来期においては欧米で血液凝固分野の事業が拡大します。また、インドなど新興国の成長は継続します。さらに、「hinotori」の市場導入が始まります。加えて、先に申し上げました、生化学事業が非連続な成長として加わってまいります。

また、来期から新たな中期経営計画をスタートします。現在、その議論を進めております。中心は、収益性の向上とデータを活用した当社独自のソリューション提供の2点になるかと思っています。後者につきましては、先ほどインドのところでご説明しましたような戦略商品もその先駆けですが、今年、技術説明会でご紹介したAIシステムを、現在先行的に開発を進めており、今年度中にリリースしたいと思っています。

中期経営計画の詳細につきましては、改めてご説明する機会を設けさせていただけたらと思っております。

ご清聴、誠にありがとうございました。

以上